九州工業大学に入学おめでとう！
＝大切な学生生活をエンジョイ！＝

一般社団法人明専会会長　高原　正雄（機43）

一般社団法人明専会を代表して、皆さんの九州工業大学入学を心よりお祝いいたします。併せて、明専会へご入会していただきましたことに歓迎の意を表します。

ご家族の皆さまもこのよき日を大変喜ばれておられることと拝察いたします。おめでとうございました。

学部に入学された皆さんは、世界中を大混乱に陥れたコロナウイルス（COVID-19）のせいで、随分と不自由な高校生活を経験されたことと思います。これからは九州工業大学で大切な学生生活を大いにエンジョイできますよう祈っております。

九州工業大学は、今から113年前に、九州の炭鉱王・安川敬一郎翁が巨額の私財を投じ、教育界の巨星・山川健次郎先生を総裁に迎えて設立した私立明治専門学校（明専）に始まりました。安川敬一郎翁は、常に報国の至誠に燃え、国家隆盛のもとは、先ずは人材育成であるという理念を持っておりました。一方、山川健次郎先生は、会津白虎隊出身で、日本初の理学博士、東京帝国大学第6代総長の経歴を有した教育界の巨星でしたが、安川敬一郎翁の崇高な報国精神に深く感銘し、自らが理想とした教育『技術に堪能な士君子の育成』、すなわち、会津武士道に通じる教育を、九州のこの地にて実践いたしました。厳格な教育を受けた先達の多くは、世のため人のために生涯を捧げ、国内外における産業界、教育界、政界などで著しく貢献されました。それが『名門・明専』と言われ続けてきた所以でもあります。その卒業生から成る明専会は、同窓の絆と母校支援を事業の柱とする社団法人であります。常に大学と連携して学生育成支援を強力に推進しております。

皆さんは、これから国際的に通用するプロフェッショナル・エンジニアに成長するためにこの九州工業大学で工学に関わる専門的な学問や研究に専心していただくことになりますが、明専会は皆さんの成長のために最大限の応援を行いたいと思います。具体的には、企業などの第一線で活躍されている先輩が学生の皆さんに技術者の心構え等をFace to Faceで伝授する「明専スクール」の開講をはじめ、「学生のものづくりプロジェクト」、「グローバル人材育成」、「トップアップ人材育成」など多くの支援事業に取り組んでおります。これらの明専会による支援プログラムは、学生本人のやる気に基づいての参加となります。プログラムに参加した学生と参加しなかった学生の間には極めて大きな差がつきます。必然、将来、エンジニアとしての進路にも大きな差がつきます。九州工業大学という「道場」で、こういったプログラムに積極的に参加して自らが目指すエンジニア像を実現するための応用力や人間力を身につけていただきたいと期待します。そのために特に切磋琢磨して身に付けるべきことは、与えられた課題を解明するだけでなく、自分の頭で課題が何なのかを発見する力であります。これを学生時代に何度か経験しておくと、将来は必ず一流のエンジニアとして活躍できるものと思います。その過程で志を同じくする仲間を作り、互いに群れ合って、大いに議論することができると、それこそが有意義な学生生活をエンジョイしたことになります。

念のために申しておきますが、九州工業大学は単位取得が極めて厳しいということでも定評があります。留年や卒業見送りになる学生は、他大学よりはるかに多いようです。折角の大学時代をアルバイトや遊びに多くの時間を費やすことなく、学生の本分に励み、大いにエンジョイして将来に繋げて欲しいと思います。

末筆ながら、明専会は皆さんをいつでも応援しております。頑張ってください。

（いすゞ自動車㈱　理事）

令和４年度　入学式告辞

九州工業大学学長　三谷　康範

新入生の皆さん、また、ご家族・ご親族の皆様、ご入学おめでとうございます。春爛漫の今日、九州工業大学に皆さんを迎えることができましたことは、教職員並びに在学生一同そして本学に関わる多くの人々にとってこの上ない喜びであります。新入生の皆さんはもちろん、新入生の皆さんを支えてこられたご家族・ご親族の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。本日は、九州工業大学を代表して、私からお祝いの言葉を申し述べさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大に伴い、一昨年度は、やむなく入学式を中止しましたが、昨年度は参加者を最小限に絞り込み、入学式を挙行することができました。コロナ禍は一進一退を繰り返し、未だ収束する気配が見えず今日に至っていますが、今年も今日このように皆さんをお迎えすることができました。我々はウィズコロナの生活様式を獲得しつつありますが、皆さんにおかれましてはこの何年か様々な苦労を経験されたと思います。改めて、この日を迎えられました皆さんのご努力に敬意を表します。

これから皆さんが学ぶこの九州工業大学は、１９０９年に開校した私立明治専門学校を前身としています。創立者は、ここ北九州市に本社を置く安川電機の創業発起人としても有名な安川敬一郎氏です。ここで少し当時の地理と歴史を紐解いてみましょう。当時「鉄は国家なり」の政策を推進してきたドイツを模範とした日本政府は、ここ北九州の地に官営八幡製鐵所を建設し、１９０１年に東田第1高炉の運転が開始されました。この場所に建設された大きな理由の一つは、本学飯塚キャンパスの近隣にあった筑豊炭田の豊富な石炭を、鉄道と遠賀川の水路によって運搬することが可能であることだったと言われています。筑豊炭田の開発には多くの人々が関わっていますが、その一人が安川敬一郎氏です。

安川氏は、石炭販売業を開始し、石炭採掘を行う明治鉱業を現在の飯塚市で興し、製鉄炉材の耐火煉瓦を製造する黒崎窯業など様々な関連企業の設立に関わっています。安川電機は明治鉱業の電気用品開発のために設立されました。このように北部九州の地に一大産業連関を形成し、この地から日本の経済発展に貢献しました。そしてこうした工業の発展に不可欠な技術者育成のために私財を投資し明治専門学校を開校しました。安川氏の偉大なところは、産業の発展には欠かせない技術者の重要さを認識し、成果が現れるまでに時間を要する未来に投資を行ったことです。石炭は今では地球環境保全の面では悪者になっていますが、石炭産業や製鉄産業に関連して多種多様な技術が生まれ、これらが脱炭素社会の形成に貢献するようになってきています。私たちはこうした伝統・資産を引き継ぎ様々な形で成長させていくことができるのです。

さて、明治専門学校開校にあたり初代総長としてお迎えした山川健次郎先生は、幕末から明治維新を白虎隊の一員として激動の会津の地で過ごされ九死に一生を得たのち理学の道に進まれ、米国留学の機会を得て、苦学ののちに日本人初の理学博士号を取得されています。米国留学が山川先生の人生の航路に大きな影響を与えたことは疑いの余地はありません。このように貪欲に外の世界を知ろうとすることは人格形成に欠かせない機会であります。しかしながら、新型コロナウイルスは私たちから世界を往来する機会を奪ってしまいました。本学ではコロナ禍前までは年間延べ700名以上の学生が海外渡航経験を得ていました。この2年間、海外渡航が制限される中、遠隔会議シ

ステムが発展し、学生のみなさんも海外と気軽に繋いでコミュニケーションの機会を得ています。しかしながら百聞は一見に如かずで、実際に行くと行かないでは雲泥の差です。世界を自らの目で見て、体感することによって人生観を変える出来事にも出会えます。コロナ禍の収束後はいち早くもとの状態を取り戻し、新入生の皆さんにも刺激的な経験を持ってもらいたいと切に願っております。その一方で、気軽にオンラインで繋がることの有効性にも気付きました。これからはオンラインで繋いで学びながら実際に訪問するブレンド型が主流になると考えております。

山川先生は、明治専門学校の開学にあたって、「技術に堪能（かんのう）なる士君子（すなわちジェントルマン）」の養成を建学の理念に掲げました。これは単に技術だけに精通した者ではなく、道徳心も兼ね備えた技術者を育成するという山川先生の想いです。また、自身の専門を極めても他の様々な分野の知識を修めていなければ完全な専門技術者ではない、との主旨の言葉を残されています。社会常識と豊かな教養を持った世界に通用する技術者を養成するという、まさに現代社会においても必須とされるグローバルな人格育成を唱えた先駆けです。こうした建学の理念は、110年以上の歴史を超えて脈々と伝えられ、現在に至っています。皆さんもここ九州工業大学で自身の興味ある技術分野を探求するとともに、たくさんのことに興味を持ってたくさんの友を得て世界とも繋がって実りある大学生活を満喫してください。

現在、「未来の技術に出会うキャンパス」を目指して、キャンパス内に無人店舗、５Ｇやさらに次の世代の通信技術であるビヨンド５Ｇに関するテスト環境、多様性あふれる人々が集まる共創空間など様々な仕掛けを順次構築して皆さんをお待ちしています。これによって、キャンパス内には学生や教員だけでなく、企業人やスタートアップを興そうとする熱気あふれる人々が集い、その中から皆さんが自らの将来を想像するためのモデルケースを見つけ出すこともできるようになります。異質な技術と人の出会いがイノベーションを創出します。

課題は技術を進歩させ、技術の進歩はまた新たな課題を生じさせます。しかし、それに対し、皆さんが、柔軟な発想のもとで、今はまだない技術や方法を生み出し、それらを解決していくことになります。多様な考え方を認め合い、知恵を出し合って、技術の裏に潜むリスクを見極め、リスクを克服した社会的価値を生み出す課題解決に貢献することができるように、学生時代に学び、考え、多くの事を試みてください。九州工業大学ではこうした環境づくりに特に力を入れ、皆様をお待ちしております。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症の影響によって、まだ様々な制約がある中ではありますが、入学された皆さんが、かけがえのない日々の暮らしや人の命の尊さについて考え、自らの健康に十分留意され、生活と学びを楽しみ、意義ある大学生活もしくは大学院生活を過ごされますことを心から希望し、告辞といたします。本日は誠におめでとうございます。

ようこそ工学部へ

工学研究院長（工学府長・工学部長）　芹川　聖一

はじめに

九州工業大学工学部に入学した新入生・編入生の皆さん、ならびに大学院工学府に入学した新入生の皆さん、そして保護者の皆様、ご入学を心からお喜び申し上げます。

九州工業大学の起源は、明治42年（1909年）4月に開校した4年制の私立明治専門学校まで遡ります。九州の炭鉱王・安川敬一郎氏が工業教育の向上と地元の工業地帯発展のために巨額の私財を投じて学校を創立しました。日本初の理学博士である山川健次郎先生を総裁として開校し、建学の理念を「技術に堪能なる士君子」としました。

本学の理念と皆さんの役割

この理念を現在の言葉で言い替えれば「技術者として高度な能力と創造性を有し、世界人としての品格を有する社会人」を養成するということになります。その理念は本学で現在も脈々と生きています。この建学の精神を受け継ぐ多くの皆さんの先輩方が、この学び舎から世界に向けて巣立ち、様々な分野でグローバルに活躍しています。

現在、経済・産業界は、グローバル化が急速に進んでいます。皆さんは、社会に出たら世界中の企業と競争することになります。そのための基礎となる準備を大学時代にしなければなりません。現在社会には、解決しなければならない問題がたくさんあります。例えば、国家間紛争、新型コロナウイルス感染症の蔓延など。このような中で、安心、安全な社会、コロナ禍もしくはコロナ後の企業のあり方、ライフスタイルのあり方、男女が共に活躍できる社会、高齢者が生き生きと生活できる社会、脱炭素社会など、将来、皆さんは工学的立場から様々な問題を解決し、みんなが暮らしやすい社会を実現しなければなりません。

大学で何を学ぶべきか

大学の授業は大きく分けると、教養教育と専門教育に分けられます。技術者としての倫理観や品位、世界人になるための素養は教養教育で培われます。高度技術者としての能力と独創性は、専門教育で養われます。大学の授業は勉強のきっかけを与えるだけに過ぎません。皆さん自身が自律的主体的に学び続けることが大切です。

皆さんが社会に出たら、答えがたくさんある問題、答えが時空間によって変わる問題、答えがない問題など、公式に当てはまらない問題がたくさん出てきます。大学の授業では、公式を暗記するのではなく、その公式がどのようにして成り立っているのか、それが何に応用できるのか、別の方法がないのか、自分で考えることが重要です。その中で、論理的思考力、専門知識・基礎学力を身に付けてください。また、そのような事象を解決するためには、課題発見力、課題解決力が必要となります。その他、コミュニケーション能力、リーダーシップ、異文化理解、危機管理能力を身に付けるために、PBL科目や海外留学の機会を用意しています。最近は新型コロナ感染症の影響で海外に行く機会が限定されていますが、オンラインで海外の学生や企業と交流する機会も設けています。これらを活用してぜひ自分の能力を高めてください。

さらに卒業後も自己成長するためには、九州工業大学後援組織「明専会」に参加して人的ネットワークを広げることをお薦めします。同窓会を通じた絆により、皆さんの将来が前途洋々であることは先輩諸氏が身をもって示しています。

おわりに

青雲の志を持った皆さんが本学での学びにより「技術に堪能なる士君子」の矜持を持ち、世界に躍動する将来を心から祈念します。

ようこそＤＸ時代の情報工学部へ

情報工学研究院長（学府長・学部長）　坂本　比呂志

本学情報工学部および大学院情報工学府に入学した皆さん、そして保護者の皆様、この度のご入学を心より歓迎します。お祝いの言葉として、情報工学研究院長からご挨拶申し上げます。

情報工学部は、最先端の情報技術と様々な工学分野への応用を目指す全国で初めての情報工学部として、１９８６年に飯塚の地に設置され、昨年度に35年を経過しました。これまでに輩出した本学部・大学院の卒業生は、１万７千人を超えており、来る40周年には２万人に到達すると思われます。皆さんの先輩方は、日本の情報社会を支える技術者・研究者として国内外で活躍しており、産業界からも卒業生の能力を高く評価されています。もちろんこのような評価を勝ち取ることは一朝一夕にできることではなく、これまで教育・研究に取り組んでこられた大学のスタッフはもとより、熱心に勉学に励んで社会に旅立っていった卒業生の活躍があってこそだと思います。新入生の皆さんも、先輩たちの後に続いて、広い世界で活躍することを期待しています。

さて、一口に35周年と言ってもその過程では様々な困難がありました。私自身は、平成15年から本学に着任したので、それ以降に限定しても平成20年のリーマンショックや平成23年の東日本大震災、令和に入ってからの新型コロナの流行や現在も続いているウクライナ問題など、これら以外にも様々な情勢によって大学における研究・教育が影響を受けています。また、平成18年学系への志望者数が過去10年で半減した時期もありました。しかし、このような数々の困難に直面しても、本学情報工学部は設立当初の目的を見失うことなく、その時代に応じた情報教育を推進し、学生と社会に選ばれる学部であり続けています。一方で、いま世界中が取り組んでいるＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）化に即時に対応していかなければなりません。その核となるのが、数理・データサイエンス・ＡＩに関する知識です。

数理・データサイエンス・ＡＩの基礎教育は「現代の読み書きそろばん」として、現在全国の教育機関で対応が求められています。本学では、情報工学部が中心となって、学部から大学院に至るまで、あらゆる分野で情報技術者として活躍できる人材育成を目指しています。新入生の皆さんに直接関係することとして、本学の工学部・情報工学部のカリキュラムは、政府が定めた教育基準（リテラシーレベル）を満たしているものとして認定されています。また、今回「数理・データサイエンス・ＡＩ教育の全国展開の推進」のための特定分野校として新たに選定されました（九州・沖縄ブロックで３大学）。

また、学部の新入生には少々気が早いですが、皆さんが大学院へ進学したときには、学部で身に付けた知識をＤＸ時代に向けた武器として磨き上げるための大学院専門課程が準備されていますので、是非とも生涯の核となる技術を深いレベルで修得するように心がけてください。そうすることで、一過性の流行や特定の環境に縛られない生き方を選択することができます。

今はまだ実感できないかもしれませんが、若いときに一つのことに熱中したという経験は、その後どんな分野に進んでも役に立ちます。私自身はデータ圧縮という数学に近い分野で研究をしています。しかし、研究室ＯＢは、情報系の業種以外に、銀行、金融、技術コンサルタント、日系企業の海外部門、ベンチャーの起業など多士済々で、大学時代の研究とはかけ離れた分野で活躍しています。

皆さんが将来どのような世界で活躍するのか今から楽しみにしております。

生命体工学研究科へようこそ

生命体工学研究科長　安田　隆

生命体工学研究科の博士前期課程及び博士後期課程にご入学された皆さん、誠におめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

本研究科は、生体が有する優れた機能に着目し、それらを工学的な技術として実現することを目的として、2000年に北九州学術研究都市に設立されました。現在では、環境・エネルギー、ロボット・人工知能、医療応用などの広範な分野において、社会的ニーズの高い先端技術を創出することに成功しています。

本研究科の特徴の一つは、分野横断型の研究を行いやすい環境が整っていることです。教員と学生の専門分野は、電気、機械、化学、材料、情報、ロボティクス、生物など極めて多岐にわたります。これらの様々な分野の研究者が一つの建物内に集積しているため、常に異分野交流が行われる機会があり、研究上の課題の解決や新たな研究テーマの創出につながっています。また、様々な分野の授業が用意されていますので、異分野の知識と技術を学び、広い視野で工学技術を応用する能力を習得できます。

学生の多様性も大きな特徴です。本研究科には、本学の工学部と情報工学部から進学した学生に加えて、全国の様々な大学や高専から学生が集まり、海外諸国からの留学生も数多く在籍しています。このような異なる経験や価値観を持った学生同士が協働することで、多様性を受け入れながらコミュニケーションを行う素養が身に付くだけでなく、新たな発想が生まれ、イノベーションの創出にもつながるでしょう。

さて、社会ではデジタルトランスフォーメーションが推進され、新型コロナウイルス感染症拡大に伴うオンライン化や在宅勤務化によってそれがさらに加速されつつあります。これによって、生活環境や働く環境は大きく変化していきます。私たち一人ひとりがこの環境の変化の中で生き延びるためには、その変化に対応する力が必要になります。

進化論を唱えたチャールズ・ダーウィンの言葉とされる「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることができるのは変化できる者である。」というフレーズは、現在でも「だから、変化しなければならない。」と主張するために頻繁に引用されています。しかし、このフレーズは、実はダーウィンの言葉ではなく、経営学者レオン・メギンソンがダーウィンの進化論を間違って解釈して論文に記し、それが流布したものであるそうです。

ダーウィンの進化論を正しく解釈するならば、環境の変化に適応しようとして生物が変化するのではなく、生物内外の様々な要因によって変異（生物個体間の形質の違い）が生じ、これが生物の多様性を生み、その多様性の中から環境に適したものが生き残るのです。そうであるならば、急激に変化する環境の中で生き残っていくためには、私たち自身の中に多様性を持つことが重要です。すなわち、多様な考え方を学び、受け入れ、多様な知識や技術を身に付けることが必要です。その意味で、多様な学生や教員が集まり、多様な研究分野を扱う本研究科で学ぶことによって、変化に対応する力を身に付けることができるでしょう。

自分の中に多様性を育むには、今まで経験したことのないことにチャレンジするのが良いそうです。新しい趣味を始める、初めての場所を旅行するなど、簡単なことでよいので、何か新しいことにチャレンジしてはいかがでしょうか？　普段から新しいことを意識することで、変化を恐れない、変化に強い人間になってください。皆さんの大いなる活躍を期待しています。

新しい環境と大学生活の始まり

教養教育院長　水井　万里子

今年度は桜の開花もゆっくりでしたので、新入生の皆さんを新しいスタートにふさわしい、明るいキャンパスでお迎えすることができて、大変うれしく思っています。ご入学おめでとうございます。

ここ数年の皆さんを取り巻く環境は、経験したことのないような、非常に多くの困難をともなうものであったのではないでしょうか。このような環境下で高校生活を無事に乗り切って、九州工業大学に入学された皆さんに、まずは最大限の敬意を表したいと思います。

九州工業大学も同様に、さまざまな状況に対応しながら、今年度の春を迎えています。遠隔授業や、学食での黙食、クラブ活動における制限など、これもこれまで経験したことがないような環境の中での2年間でした。しかし、この期間に得られた様々な工夫による知識や経験は、九州工業大学の教育に携わる教員にとって大きな財産になりました。

新入生の皆さんも、これまでのオンライン授業やソーシャル・ディスタンスをとった学校生活の経験を通して、様々な工夫と学びを積み重ねてこられ、今ここに集っておられるものと思います。新しい学びの形を皆さんとともにさらに発展させていければ幸いです。

教養教育の目的

九州工業大学では、全学の学部生、大学院生に全学共通の教養カリキュラムに沿った科目を開講しています。

このうち、人文社会系では、以下の4項目、①豊かな人間性を持つ教養人の育成、②多様な視点から物事を理解する能力の育成、③多文化社会におけるコミュニケーション力の育成、④自ら問題を発見し応えていく姿勢の育成を教育目標として置き、学部から大学院まで学習する機会を提供しています。

高校から大学へ、皆さんの生活環境は大きく変化していることと思います。これまでは受験勉強や部活動など、目標がはっきりと定まった学生生活を送ってこられた方も多いのではないでしょうか。大学生活は、この目標を自分で定めていく必要があります。どの科目を履修するか、どのようなサークルに入ろうか、将来はどんな就職先があるのだろうか、それとも大学院に進学する方向性はどうだろう、など、自分自身の価値観を頼りに目標を決めていく必要もでてきます。大学生活というのは、新しい環境や、新しい人間関係の中で、自分を見つめなおし、また新しい価値観を獲得した上で目標を定める大事な場であるといえます。

さらに、刻々と変わっていく社会、グローバル化が加速する社会にあって、九州工業大学の学生が社会に出るにあたって、何を学び、どのような価値観を持って卒業していくのか、大学生活以上に皆さんの将来のキャリアにおける目標は不明確な状態なのかもしれません。

大学生活での新しい価値観を獲得し、目標を明確なものとする上で、教養教育の学びは大きな力となります。教養教育では、自分と自分の周囲以外の、多様な価値観を持つ他者の存在を見渡すことができる、人文社会系・言語系（英語・初修外国語）の様々な科目群を設置して、このような学びの機会を提供しています。

さらに、九州工業大学の学生が、急速にグローバル化する社会で将来活躍するための力、「技術者のためのグローバル・コンピテンシー」を要請するGEコースも開設されています。このコースでは、グローバルに活躍するための志向性「グローバル・マインドセット」の獲得を目標とし、海外の学生との協働学習体験を学びに取り入れています。TOEIC900点台の大学院生、学生も増えてきている九州工業大学で、皆さんの成長を実感しながらともに学び教えることを楽しみにしています。

入学式　式典スナップ

新入学生代表宣誓

会場の新入学生たち

新入生　スナップショット